

一席 沖縄県知事賞

ひかりのあをさ

浜崎 結花

泣きながら非常階段のぼりきり殊更つよき風に抱かれり

ゆふやけが私をとほりぬけてゆくやうな気がして夏はじまりぬ

屋上のドアより見ゆるあをぞらを夏のひかりのあをさと思ふ

海といふかたち無きもの抱き込めばみづは正しきかたちを覚ゆ

絵日記に花野を写し取るための色鉛筆に足りぬ橙

二席 沖縄県文化振興会 理事長賞

伊波 瞳

読谷の「聞えきこなよくら」おもうとき残波岬の灯台ひかる

瀬名波坂くだれば泉のさやけさよおもろの歌の響きのごとし

祈れどもわれに歌なし伝説の赤犬あかいんこ子宮に秋陽しみゆく

なにゆえにさやぐ心ぞふるさとの村に流るるおもろの時間

黄金雲銀雲立つと誦しゆけば座喜味城址のたそがれさびし
こがねぐもなんじやくも

佳作

渡部 敦則

古傷のラインをなぞってざらざらと指で感じる生きてる感じ

青ざめてシャツトダウン再起動 立ち上がれない死んだんだ僕

溢れ出る血小板が邪魔 切っても切っても生きようとする僕

CDの切り口を引く音楽と僕の指がつながるユニゾン

引きこもる君に勇気を新しいスタンスミスで踏むまず一歩

佳作

金城 芳子

村庭に銅鑼の音ほらの音鳴り響き猛る大獅子邪気を追ひ遣る

女らの祈りは和して謳となり村の社に清かに渡る

故里に踊り継がるウスデーケ白太鼓命育む女の祈り

打ち鳴らすチヂン小太鼓に合はせ緩らかに舞初むる女ら神女の如し

しなやかに白太鼓舞ふ女らをほんのり照らす十五夜の月

佳作

松瀬 トヨ子

あとひとり待つ辺野古へのバスの窓見守るように明けの明星

反基地の意志もちて行くやんばる路ここやんばるは吾のふるさと

褐色の幌おおう車両のUSAまだ明け遣らぬ山道に遭う

知恵の輪のように絡まる政策に鶯^{ひよ}の鳴き上ぐイジユ咲く島に

基地建設の賛否は言わず泡盛を飲み交い踊る村の夏祭り

佳作

幸せは風に吹かれし後ろ髪気づきし時は最早や掴めず
透きとおる渚の波よ触れてゆけ青き魚を抱く海の手
波音を聞きつつ眠ろう碧澄みどりむ海閉じ込めし瓶の蓋開け
均一な造りの高層マンションに異なる灯の点き暮らしが覗く
島の夜の空を行き交う雲幾つ高層ビルにストール巻けり

北見 典子

佳作

伊志嶺
節子

まどろめば一瞬にして時は過ぎ老年という囲いのなかに

もう一度あの分かれ道に立ち止まり異なる世界を眺めてみたい

足跡の見えぬ来し方少しだけ傾げば残る光のかげら

加齢という孤独はいつも寄り添えど闇よりひかる星のようにも

老いゆけば老いゆく者の道ありて闇を伴い月は輝く